

平和と生活防衛の旗高く！

働く者の心意気示した「港地域メーデー」

「万国の労働者は団結しようー」「解釈改憲・貧困にNOー」！五月一日朝、みなと通に力強いシュプレヒコールが響きました。第八十五回「港地域メーデー」の行進です。主催したのは全国金属機械労働組合・港合同（南市岡）。港区を中心とする中小企業労組の集まりです。これに「平和と福祉」を掲げる「NPOみなと」や一般市区民も合流、合わせて約三百人が沿道の人々に「働く者の団結と闘い」を呼びかけました。

改憲・原発・アベノミクス・消費増税・TPPなどに警鐘

◆伝統の独自開催

メーデーは八時間労働制を闘い取ったアメリカ労働者のゼネスト（一八八六年を起源としています）、その戦闘的な歴史と性格を薄め、メ

ーデーを単なる「お祭り」にしてしまう近年

の傾向に警鐘を鳴らすため、港合同は十七年前から独自の「地域メーデー」を催してきました。

今年はリーマンショックから東日本大震災

原発災害へと続く庶民生活の未曾有の苦境に加

え「アベノミクスで景気回復」との宣伝の裏で

消費増税が強行され、貧困と格差がますます深

まり、平和憲法や労働運動への攻撃も厳しさを

増す一方、「負けてたまるか!」と労働者や庶民の怒りと反撃もかつてなく高まる中での開催となりました。

◆「解釈改憲」なごに警鐘

午前十時から入舟公園（八幡屋）で開かれた集会では港合同の中村委員長が「あらゆる面で規制緩和が進む中、生きるためには闘つ以外に道はない」と苛酷な状況下で保持すべき労働者の基本姿勢を訴えました。

またNPOみなどの玉置代表理事は「自国を攻撃してもいない国に対して戦争が始まるというのは恐ろしいこと」（憲法解釈変更は）内閣の「存でやることではない」との憲法学者の「メントを引きながら、安倍内閣がめざす『集団的自衛権』や『解釈改憲』の危険性を指摘、『無関心は為政者への静かなる支持である』との格言で市民にも警鐘を発しました。

港合同の原田副委員長は、労働法制改悪や解釈改憲の根源を、リーマンショックによる格差拡大など経済面から説き起こし、「獲得した権利を守るため、未組織労働者の組織化などの運動を『層押し進めよう』と呼びかけました。

集会に参加した六十八歳男性（池島）は「昔仕事の中で田中機械と交流があり、今は港合同のケアセンターでボランティアをしています。一人ひとりがばらばらな世の中で、こうして人の繋がりを大切に、力を合わせて運動するの

繋がりを大切に、力を合わせて運動するの



→「解釈改憲を許すな!」などとシュプレヒコールをあげながらみなと通を行進する労働者

は本心に責重なことです」と話していました。

◆「働く者の社会を」と呼びかけ

集会の後、参加者はみなと通を東へデモ行進。「今、まともに働け、家族で健康的に生活できる労働者がどれだけいるでしょう」「力を合わせこんな世の中を変え、働く者の社会をつつていきましょう」と沿道の住民や通行人に呼びかけながら、「戦争する国」づくりを許すな!「解釈改憲を許さないぞ!」「TPP反対!」「原発を再稼働するな!」「消費税反対!」などのシュプレヒコールを連呼しました。

夕風バス停でバスを待ちながら行進を見守っていた六十八歳男性は「安倍や橋下になつてから何でも値上がりして暮らしにくくなった。若いものの仕事もなくなった。デモ隊が言っていることは、その通りや」と話していました。

◆「メーデー宣言」を採択

デモ行進のあと、参加者は南市岡の田中機械構内で集会を持ち、交流を深めました。この中では「百一十四年前、世界の労働者の共通スロガンとなった八時間労働制が再び切実な課題となっている」という労働法制の危機や、「ナチ

ス^{たが}と違^{ちが}う。歴史的暴挙」である安倍内閣の解釈

改憲の動きを「官民労働者と市民の連帯で打ち

破^{やぶ}る」とアピールする「港地域メーデー」

が朗読・採択されると共に、参加労組や団体が「残業代未払い」「人減らし」「不当解雇などに対するそれぞれの闘争状況を報告し合いました。

また、この中で港合同^{しんごう}＝金属支部の木下書記長が言及した「橋下市長による民営化や都構想が思うように進まないのは、地域からの官民労働者の粘り強い闘いがあるからだ」との現状認識は、弱体化した現在の労働運動の中の積



→五月の空の下、闘う労働運動の息吹が溢れた

「港地域メーデー」。上は入舟公園での集会、

下はみなと通を進むデモ行進

極的な動きにも目を向けようとの呼びかけとして、大きな拍手を浴びていました。

◆「集まって元気づけた」と参加者

最後まで参加していた三十代男性は「数年前に市の職を『信用を失墜した』との一方的な理由で解雇されたことに納得できず、今も係争中です。このメーデーに参加するのは三回目ですが、色々な問題を抱える労働者が集まって行動することで元気をもらえます。今日はたくさんスローガンが叫ばれましたが、尖閣問題などをきっかけに、日本がアメリカの戦争に引きずり込まれるのではないかと一つことが一番気になっています」と話していました。

同じく最後まで参加していた二十代女性一人は「難波のカラオケ店で働いていますが、長時間労働の中で残業代未払いが重なっていることに對して、港合同の指導を受けながら、会社と交渉しています。このメーデー集会には初めて参加しましたが、たくさんの方々が集まって情報交換する姿が心強く、励まされました。自分たちの問題から出発して労働問題に関心を持つようになり、特に労働法制の改善は許せない

「デモ行進の後、集会で互いの運動を交流し、親睦を深める参加者」南市岡の田中機械で



と強く思っています」と話していました。

◆労働相談を無料で受け付け

なお、港合同では、倒産・解雇・賃金不払い・条件切り下げ・サービス残業・労働災害・セクハラ・パワハラなど、労働に関する相談を無料・秘密厳守で随時受け付け、大阪労働者弁護団や関西労働者安全センターなど専門家グループとも連携して問題解決に当たっています。

問い合わせは港合同（南市岡二・六二六、TEL六五八三・四八五八、FAX六五八三・四六〇〇、メールsoundann@minatogodo.orgへ。

叫んでいいともー！

今月の提言者

大野 ひろ子さん(南市岡)



生活保護減額は違憲

ハッシングの裏で進む社会保障解体

国は昨年八月から来年四月にかけて、生活保護費を二段階で六七〇億円削減する決定を強行しました。個々人にとっては、平均で六・五割、最大で二〇割もの引き下げです。

これに対し、全国で二万三千人近くが不服申

立てをし、一月末には全国に先駆け、佐賀県の十四人が「生活保護費の減額は違憲」と取り消しを求める裁判を起こしました。大阪でも多くのの方が申請し、□頭で意見陳述を行ないました。棄却されれば裁判に訴える構えです。※資料1参照

七月からは改悪生活保護法も施行されます。大阪府警による弾圧もありました。そんな中、勇気ある、命がけの闘いです。

◆無法・無慈悲な生活保護ハッシング

この間、国・行政・マスコミが一体となった偏見と敵意の扇動によって、受給者や家族は息を潜めて生活しなければならぬ風潮が作られてきました。そして実際に、一方的打ち切り、返上せよの圧力、必要な人が申請できない、受理の拒否—などの対応が強まっています。

大阪市では区役所に警察OBを配置し、監視カメラを設置し、生活保護をまもるで「犯罪」視。違法なやり方で保護費削減の数値目標を達成しようとしています。こつした業務に多くの非正規労働者が動員されています。生活保護水準以下を強いられたワーキングプアの労働者を生活

保護攻撃の担い手にして頂く、その裏で安倍や橋下や財界がほくそえんとしています。本当に許せません。

◆《生きる権利》と《国の義務》

全ての人が「人間らしく生きたい」と願っています。この社会に生を享けた限り、これは《権利》です。法があるところ無から存在する《根源的権利》です。その命をギリギリのところで支えているのが生活保護。お患みではなく、国（行政）の《義務》です。介護も、福祉も、医療もしかり。それを法として根本的に規定しているのが憲法二五条をはじめとする条文です。安倍政権によって急加速する生活破壊、雇用破壊、人権破壊の中で、この原則を曖昧にして、命を守ることも、闘うこともできません。

◆生活保護は「国民的」課題

生活保護制度の解体は、保護を受けている本人や家族の命と人権を奪うだけではありません。生活保護基準は最低賃金や課税控除、保育費や教育費、公営家賃など、様々なところに影響しているため、その減額は社会保障全体を解体する突破口になります。さらに病気やケガ、障害

離婚や未婚での子育て、高齢、失業などで収入が減り、保護を給付されるべきなのに放置されている人々が受給者の何倍もいて、そうした準備も含めれば、本当に多くの人たちが生活保護と無縁ではありません。 ※資料2参照

生活保護制度の維持はまさに「国民的」課題です。私たち労働者は、そうした国民運動の中心となり、先頭に立って闘つ決意です。

港合同労働会本部 〇八五八二・四八五八

※資料1 大阪での口頭意見陳述 買い物は

スーパーが安くなつてからにしている▽心から笑えない▽十、二十田の米を買う。糖尿病だが野菜は高くても買えない。部屋が暗いので電気をつけるが電気代が高い。クーラーはつけられない▽一万田の貯蓄が保護費減額から半年で一万田に息子の肌着一枚買つのも躊躇。貯蓄がなくなると医療費の立て替え払いも出来ない。精神的に追い詰められている(シングルマザー)▽一日一食。おかず一品。下着は旧田シヨップ。一カ月でボロボロ。風呂は入らず週一回のシャワーで節約▽申請を五回断わられた。二十田安い物

を求め、歩いて五十分のスーパーへ行く▽香典が出せないで親戚や友人に不幸があつても知らないことになっている▽電化製品は買えない▽新聞を取れない

※資料2 国民の貧困化を示す数字 生活保

護受給者は二五万人▽年収一〇〇万円以下の労働者は一〇〇万人超▽非正規雇用労働者は一八〇〇万人超(三人に一人以上)▽貯蓄ゼロ(一〇歳以上・一人以上世帯のうち)が三割▽国民健康保険料滞納が加入者の一割弱(三七〇万世帯)▽国民年金保険料滞納が加入者の四割以上

働く仲間の相談所

倒産、解雇、賃金不払い、条件切下げなど何でも困ってませんか?

無料

港合同 (南市岡3-6-26) ☎6583-4858

被災地農民を支援します。

反原発の声をあげよう!

ご協力下さる方はご連絡下さい

三里塚産直野菜の会

磯路2-3-9(三社神社そば) TEL.6572-0130

あれこれガイド

●復興支援(3周年) 記念集会 東日本大震災

から三年。発生当初から宮城県山元町での瓦礫撤去や仮設入居者への健康面での支援、福島県の社会福祉法人への物資支援や現地視察(昨年九月)などに取り組んできた大阪きづな医療福祉生活協同組合が「被災地を想つ 安心・安全な未来へ」をテーマに、現地で原発問題に取り組んできた伊東達也さんを招いて記念講演を企画。五月二十四日(土)十三時半から大阪市中央体育館(地下鉄朝潮橋駅②出口、市バス八幡屋(停留所すぐ) 大会議室まで。参加無料。前半(十三時半〜十五時)は伊東さんが「故郷に帰れない〜フクシマからの報告〜想定されていた原発事故」と題して講演。後半(十五時〜十六時)は「被災地に寄り添った医療福祉生協の活動」と題する報告を予定。伊東さんは一九四一年生まれ。福島県いわき市在住。高校教員や市議、県議を経て現在「近通の医療生協」理事長、原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員、原発事故の完全賠償をさせる会代表。二〇一一年日本ジャーナリスト大賞受賞。主催は大

阪きづがわ医療福祉生活協同組合。問い合わせは同組合港エリア事務所（磯路二・三・四、☎六五七一・〇六〇六）の山本さんまで。

●大正区「原爆と戦争展」

①第「次世界大戦の真実②沖縄戦・全国空襲の記録③原爆と峠三吉の詩④敗戦後の日本⑤福島原発災害」などの写真ハネルや「原爆と戦争の体験を語る集い」を通じて、日本の現状をもたらしした原爆と第二次大戦の真実に迫り、被爆者・戦争体験者の平和への思いを伝え、平和で豊かな未来のために何ができるかを考え合う。十三回目。六月八日（金）



→一九四五年八月、長崎で背中中の焼けただれに耐える少年①と、同年十月、広島日赤病院で治療を受ける女性②＝展示予定の写真から

十四～十八時、七日（十八日）十～十七時
大正区コミュニティセンター（大正区千島一六・一五、市バス大正区役所前）の二階第四・五会議室で。入場無料。主催は大正区原爆被害者の会・大阪原爆展を成功させる会（TEL・FAX六三二四・二八四一）。

●お墓参り写真「コンテスト」フォトコン2014

4 「笑顔でお墓参り」「ご先祖様に報告」「尊くお参りしている姿」など「幸せのシンボル」としてのお墓やお墓参りを撮った写真（プリントでもデータでも可）を募集。庵治スローンフェア2014「協賛イベント。八百字までのメッセージ（手書きでもデータでも可）を付けばなお歓迎。」「お墓100年プロジェクト」加盟石材店へ持参又は郵送。賞金は大賞（二名）五万円、審査員特別賞（二名）一万円、庵治スローンフェア賞（二名）一万円、奨励賞（三名）記念品。応募は五月二十四日（土）まで受付中。審査発表は六月二十八日（土）ホームページで。詳しくは主催の「お墓100年プロジェクト」のホームページ（<http://ohakainonlineblog.fc2.com/>）で。

●ムチ打ち（首・腰）無料相談会

交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。五月二十五日（日）十～十八時に行政書士のむら事務所（築港二・七・一・六〇〇）で。一人約一時間。事前予約制（電話かEメールで。「どついたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」（同事務所・野村光恵さん。Eメール info@jikko110-nomura.com、TEL 六五七六・六〇七八、FAX 六五七六・六〇七九）。

●ワークみなと「東北食品市」

東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が震災前の地元産材料、宮城県産材料、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から（売り切れ次第終了）▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕凧一・六・三、夕凧公園そば、☎六五七一・七五一一）。

あさやけ

吉本新喜劇のギャグ風に「売って放しはダメ
よダメよダメなのよ」とぼやきだくなるよ
うな「ウィンドウズXP」騒動。去る四月十日以
降はウィルス侵入にも「サポートなし」とか。筆
者のパソコンはウィンドウズVistaなので
安全なようですが、そのうち「え…」てな事態も
予想されます。が、その時はその時。「ウィルス
に命やられる訳やなし」(川柳のつもり)と
開き直っています▼それにつけても自社の利益
さえ確保できたら「あとと野となれ山となれ、ま
た買いははれ」とは余りに身勝手。日本の商道徳
も地に墮ちたものです。それもこれも戦後急速
に蔓延したアメリカ型自由主義の必然の結果
でしょう▼それに比べて戦前や戦後しばらくの
日本企業にはまだ「世の為人の為」の精神が息
づいており、儲けめと勝ち抜くことに汗を
流しながらも「国民の幸福や国家の発展に役だ
つ」といふ会社について誇りが有言・不言問わず
見られました。家電を国の隅々に行き渡らせた

松下幸之助さん、即席廻を世界へ広げた安藤白
福さん、メセナ(企業による文化芸術支援)の範
を示した佐治敬三さんら、今は亡き関西の経営
トップには特にそれが顕著でした。彼らならウ
ィルスにもきつと最後までサポートしてくれ
たことでしょう▼が、そんな懐旧に浸っても、古
き良き型のリーダーが今の世に突如現われるは
ずもなし。そこでここは一つ、懐かししの『東京
五輪音頭』(六四年の旋律で)♪五年経つたら
また買ひいましょとそんな売り方詐欺じやな
い♪と♪♪詐欺じやない♪♪でも歌って
憂さを晴らすとしまして♪♪何の♪♪ちや。

× × × × × × ×

「♪云のためなら女房も泣かす」と歌われた
のは初代桂春団治でしたが、今の科学者は「カ
ネのためなら若い女も泣かす」ようです▼「存
じ」STAP論文「騒ぎ。理研は四月、論文の
捏造・改竄を認めると共に、「不正は小保方一人
でやった」と個人責任にする「最終報告」を発表。
小保方さんは「承服できません」と再調査を求め
ましたが、五月八日にはそれも拒否し、処分で
幕引きを図りました▼論文の共著者は内容に同

等の責任を持つのが科学界の常識。にも拘ら
ず、地位も財もある科学者十数人が寄つてたか
つて新進女性研究者一人に責任を擦りつける
のは、科学以前に人の在り方として頂けません
▼しかも、当初数カ月かかるといわれていたこ
の最終報告が、中間報告から二週間後に慌てて
発表されたのは、安倍政権の成長戦略の目玉で
ある「特定国立研究開発法人」が閣議決定される
前に内紛の始末をつけて法人指定を勝ち取る、
つまり巨額の研究予算を得るためだったとあつ
ては、ますます冒頭で示した「カネのための
生贄」の構図が鮮明になつてきます▼論文の正
当性やSTAP細胞の真偽についてはいづれ明
らかになるでしょう。が、そんな一番重要なこ
とを二の次にして、結局はカネのためにバタバ
タ動かざるを得なくなった現代社会。中世「コ
ロッパを恐怖に陥れた」魔女狩りには、自らをク
リスチャンと唱える人たちがイエス・キリスト
の純粋な教えを宗教上の嘘や迷信で置き換え
始めた時に始まったといわれています。科学者
を自称する人たちが真実を離れた時に何が起
るか―実に教訓的な出来事といえるでしょう。

市岡商業跡地を売却へ

「市場調査」報告に区民が意見



→民間への売却が決定され、区民から「いつ決まったのか」「市有地で活用できるのでは」などの声も出ている市岡商業高校跡地と元校舎

「いつか」で売却が決まったのが「入札額だけで決めないように」「地元の声を反映してほしい」「ぜひとも大学の誘致を」「区民の声を聴く進め方に希望もった」。四月九日、港区民センターで開かれた「市岡商業高校跡地の活用に係る調査結果等の説明会」では、二〇二二年三月に廃校となった市岡商業高校（弁天二丁目）の跡地売却のためのマーケットリサーチ（市場調査）の結果が港区役所から報告されると共に、参加した区民から様々な意見が出されました。

◆初の市場調査 大学など四者が提案

説明会ではまず田端区長から「跡地は交通至便の貴重な土地である。公募で売却先を決定する前に実際のニーズについて、土地の売却では市で初めて市場調査を実施した。本日は、地元の意向も踏まえつつ、透明性の高いプロセスで進めたいこの趣旨で、その結果についての説明会を開催した。どしどし意見を」との呼びかけがあり、担当部署（企画調整担当課長）から大要次のような内容が報告されました。

一、大阪市では未利用地の売却を順次進めており、市岡商業高校跡地の売却を予定している

が、事業者の公募に先立ち、市場の動向や民間の意向などを把握し、公募での条件整備に役立てるため市場調査を実施した。

二、市場調査では市としては大学などの高等教育関係施設や健康・医療・福祉施設、文化・集客施設の設置を望んでいることを示した。

三、昨年十一月から市場調査を始めたところ、二十五者が説明会に参加し、四者が意見や提案を示した。このうち医療法人は医療介護施設などを、建設企業は高齢者向け施設などを、学校法人Aは医療系大学を、学校法人Bは都市型キヤンパスを、それぞれ提案した。

四、それらを踏まえて地元（港区）地域振興会、波除連合町会、弁天連合町会 から、①入札額の多寡^{たか}だけで評価せず地域利益や住民の声を考慮した選定を②活力あるまちづくりのために大学の誘致を③賑わいにつながる環境整備を④防災拠点の役割を持たせるよう働きかけを⑤地域環境の快適性に配慮を「などの要望があった。これに対して参加の区民から主に次のような意見が出されました（→の後は区役所の回答）。

◆「ぜひ大学の誘致を」

「交通科学博物館の閉館などで寂しくなっている港区に大学が来れば、賑わいの創出や教育文化環境の向上、学生を通じた港区の魅力の全国発信などが期待できる。ぜひ誘致を」(弁天・男性)

「入札額が高ければいいでもいいという決定はやめてほしい。教育・文化の向上という点では大学がふさわしい。公開講座や施設開放など住民に開かれた運営を期待している」(男性)

◆「スピード感をもって進めよ」

「廃校から二年経つのにまだ売却先が決まらない。スピード感がない。入札の時期はいつか」(男性) ↓ 「未定だが、早期売却ということを進めたい」(副区長)

「公募や市場調査には賛成だが、選択先をどう絞り込むのか」(南市岡・男性) ↓ 「市場調査は公募の条件を決めるための入り口であり準備段階。今日の意見などを踏まえ、これから市の契約担当や教育などの部局と調整の上、市長・副市長にあげて条件を絞り込んでいく」(区長)

◆「売却はいつだれが決めたのか」

「市が所有したまま地域と相談して活用法を

「入札額だけで決めないよ」「地域の声を反映させて」「ぜひ大学の誘致を」などの声が出た説明会＝四月九日夜、港区民センター



決めることもできたのに、いつ、だれが、どこで、何を根拠に、売却と決めたのか。廃校時の市教委の見解は『まだ白紙』だった」(田中・男性) ↓ 「事業で活用する見込みがない未利用地は売却という市の方針に基づき、全部局に確認した上で、閉校翌年の平成二十四年度から売却を予定していた」(企画調整担当)

◆「ギャンブルや風俗は避けて」

「ギャンブルや風俗に関係する企業の誘致だけは避けてほしい。市長の姿勢からするとやりかねない」(築港・男性)

「説明会には医療、大学、建設以外にどの分

野から参加があったか?」(磯路・女性) ↓ 「物販、社会福祉法人など。ギャンブルや風俗関係はなかった」(企画調整担当)

◆「区民の声を生かして進めて」

「市区民の声を生かして進めてほしい。私も意見を述べていきたい」(市国元町・女性) 「てっきりマンションが建つと思ったが、こうして区民の声を聴きながら進められるのを見て希望を持てた」(弁天・女性)

これらの意見を受けて最後に田端区長が「早期売却をめざして進めるが、節目節目には区政会議や広報などを通じて進展状況を区民に報告していきたい」と結びました。

◆「廃校時に区民から反対の声も」

そもそも今回の説明会に至るまでには次のような経過がありました。

まず二〇〇七年六月に市が発表した廃校方針には区民から「港区から文教施設がなくなるのは青少年に良くない」などの声が起こり、地域における学校の存在の重要性がかえって浮き彫りにされました(本紙第九七号で既報)。

その後、二〇一二年春の廃校時には跡地につ

いつ「防災拠点」かつ「工場」の「停滞」している

『港地区復興土地区画整理事業』の記念施設建設予定地(磯路)と等価交換して本格的な文化施設を「建物をもそのまま使い、色々な催しを通じて触れ合える世代間交流の場」ではどうか。費用も手間もかからず、すべ実行に移せる、一番現実的な活用方法」などの意見が交わされていました(本紙第二五二号で既報)。

◆市は「跡地の白紙」と回答していた

これに対して土地所有者である大阪市(教育委員会施設整備課)は廃校当初(二〇二二年三月)、「跡地をどう活用するかは白紙。スケジュールも未定。地元の意見をよくくみあげながら協議し、決定していく」としていました(本紙第二五二号で既報)。

ところが、市は今年一月の「広報みなと」で突然、①同跡地の売却を予定している②売却に先立ち跡地活用についての意見や提案を民間事業者に広く求める市場調査を実施している③調査の結果は「月下旬」で公表する④区民の意見も聴きながら売却条件を検討する」と発表。これに基づいて「市場調査」が行なわれ、今回の

説明会となった訳です。

◆区長の地域重視の姿勢に評価

このような市の対応は、廃校以来の市区民と行政間の関係や経過を無視したもので、区民の間では①売却を決定したという一方的な結論②意見や提案を民間事業者に求めるという企業重視・住民軽視の姿勢③調査結果を「月内に公表する」という性急な進め方が問題とされ、「市民協働とは程遠いものや」「こんなやり方をしてまで売却を進めるのは結局、売却益による一時的な財政改善しか目に入っていないからではないかな」などの声が挙がっていました(本紙二七四号(今年一月)で既報)。

今回の説明会でも、これらに沿った疑問が参加者から出され、大阪市はこれと真摯に向き合った対応をとることが求められます。

その一方、港区役所が前面に立った今回の説明会では、そうした市の決定の枠内でも「できるだけ区民の声を反映させよう」「透明感をもつて進めよう」という田端区長の精一杯の地域重視の姿勢が見られ、それを好感をもって評価する声も聞かれました。

◆「売却」を前提としない区民議論を

こうした経過を総合的に見ると、「この問題には先の井大町市民学習センター売却と同じく、「財政改善」を錦の御旗に、「市民の財産を民間に売り飛ばして儲けさせてやる」という橋本市長の財界重視・市民軽視の姿勢が色濃く出ており、それを先機関である区役所を前面に立てて通そうとしているように思われます。

仮に「財政難が理由なら「カジノ誘致」「二ア鉄道」「道頓堀プール」など市民には目玉あつて財界だけが喜ぶ計画を中止すれば財源は生み出せます。「市民協働」を唱えるならこういう問題でこそ範を見せてほしいもの。「民間活力」をいふなら財界ではなく地域の人々の中にこそ知恵と力を見出すべきです。

因みにその後、四月二十三日に大阪市戦略会議が開かれ、市岡商業高校跡地について「大学設置等を条件とする条件付一般競争入札」で売却することが決定されましたが、市民の立場から言えば、市はそのような決定を撤回し、少なくとも「売却」を前提としない自由な市区民議論の場をまず設けるべきではないでしょうか。

話し合っでは行動し

田中一丁目東町会 植木や自転車を整理



「地域の安全や環境を守るため、話し合いと行動の繰り返しを」。一月に「住民の声を聞く会」で地域生活の様々な問題を行政に提起した田中一丁目東町会（二月まで既報）が、「話し合っただけではあかん」と、その後も実際行動を積み重ねています。

◆路上の観葉植物を撤去

このうち四月十五日午後には大阪市建設局市岡工室所の協力を得て公道上の植木の撤去が行なわれ、同町会から木村良雄^{よしお}会長ら数人が立ち会いました。同所の職員らが家の前の路上の観葉植物や植木鉢などを次々と撤去して作業車に載せていくと、風景が少し変わり、会場からは「ちよつと寂しくなっただけ、すっきりしたね」と納得顔。木村会長は「住民一人残らずに納得してもらったことは難しいですが、よく話し合っ、ある程度の合意を得れば、行政の協力を得て果断に行動へ移していかなければ、地域の環境は守れません」と話していました。

◆他地域へ広がってほしい

作業を指揮した工室所の責任者は「道路は私物ではなく公の物ですが、その上へ好き勝手に

置いて『あそこもやっつてやん』との聞き直りが多いのが現状です。事故があったらその家の責任になりますが、かといってこちらで勝手に撤去すれば窃盗罪。やはり『自分たちの町をきれいに』という話し合いや行動があるかどうか。その意味では今日の作業は意義がありました。この町会のような取り組みが他の地域へも広がってほしいですね」と話していました。

◆公道上の放置自転車に警告

また四月二十五日朝には「市民協働で放置自転車のない街に」と自転車放置への警告・啓発活動が行なわれました。同町会から登録したサイクルサポーター（大阪市放置自転車等啓発指導員）四人（登録は五人）を中心とする住民十



→放置自転車に警告絵符を取り付ける町会員ら

数人が、大阪市建設局の職員十数人と共に地域内を巡回。①放置自転車に「めいわく駐車禁止」「近距離は歩こう」「記念・防犯登録をしよう」などと書かれた警報^{えいほう}給付を取り付ける②公道上に放置された自転車を移動・整理するーなどの活動を小一時間かけて実施。給付を取り付けられた放置自転車は二六五台にのぼりました。

参加したある女性は「ワンルームマンションなどを中心に、まだ放置自転車は多いですが、うちの町会ではこれまでに何度も啓発を行なってきましたので、そのつど数が減り、積み重ねの効果が感じられます」と話していました。

◆活動の積み重ねで環境改善

放置自転車への警告活動に参加した建設局市岡丁室所の責任者は「放置自転車を完全になくすことは難しいですが、置き方一つにしてもできるだけ敷地から出ないように斜めに置くなどの工夫をするだけで、環境はかなり改善されます。このような活動を積み重ねることで、そうした意識が多くの市民のものになればと思っています。この町会のような取り組みが他の地域へも広がってほしいです」と話していました。

環境

猫ふやらず共存を！

イベントで「町猫」よびかけ



→「野良猫をふやさず地域で共存を」と催された「町猫」イベント。写真は猫フロッピーづくり（正岡智美さん提供） 〓 四月、築港のあわや食堂で

「野良猫をふやさず、地域で共存できるように行動しましょう」と呼びかける催しが四月二十六日に築港で開かれ、賑わいました。主催は「築港町猫倶楽部」^{まかなの町猫くわんぶ}。昨年末、野良猫保護を続ける個人の任意サークルとして結成され、①「町猫」の考えを広める②避妊・去勢手術を普及する③町猫の一代限り一生の保護・管理を行なうーを目的として活動が続けてきました。資金は寄付やイベント収入で賄^{まかな}うとされ、これまでフリーマーケットなどを行なってきました。

♥猫フロッピーづくりやオープンカフェ

この日は朝から夜まで「あわや食堂」^{あわや}（築港一・ハート七）を会場に、築八十年超の古風な座敷^{ざしき}で珈琲を味わう「おばあちゃん家の町猫カフェ」や、女性講師の手ほどきでオリジナル猫フロッピーを作る「まち猫フロッピーワークショップ＆オープンカフェ」を開催。地域の協力者や通りがかりの観光客が足を止め、「町猫」の呼びかけに耳を傾けながら楽しんでいました。

♥避妊手術、猫リスト作成、里親探し

また会員を中心に持たれた話し合いでは、「築港地域にさまよつ猫を捕獲し、避妊手術を施し、

バランスについて

池島・勝部泰臣 八十歳

本紙名物「ラム」あさやけで二つの問題提起があった。選挙って何だろうって。有権者の半分にも満たない投票率。六〇・七〇割なんて月曜日の各地の市長選の結果記事みてても、まあ稀やもんな。誰に入れなさいと命令「喝、そついつバックがある」とは強いわな。良いも悪いも投票所に足を運ぶんだから、第三者があつたことについてじゃない。右側の人はそれでいいと喜んでるだろうが、中立又は左寄りの人は面目はない。国、地方含めてこの国は右旋回しつつあると思う。バランスがあらゆる面であつてない。国会にすれば野党の諸兄如何をするかということになる。一般人より高い銭貰つてそれなりの仕事してるんかいなとぼやきたくなる。ひょつとしたこの国は古き封建制の時代の残リカスが未だにこびりついていて、民主主義な根についても育たない風土がもれぬ。かつて周恩来首相は、その内に先の先まで見通してのきく政治家が出来ると思ひます

よと著書」書いてるらしいが、今のバランスの悪い状況ではどうもではないがの感である。早め早めに軌道修正しないと「フリーキ」のからぬままにとんでもないことになるよ。

.....

竹下さん、松田さん、お疲れ様でした・

築港・七代 H

「解雇撤回させた労働者・市民の団結」(前号二頁)を読んで。天下の太平洋セメントをバックに持つ生コン会社からの一方的な解雇通告に屈せず、支援の人たちと粘り強く闘い抜いて和解を勝ち取ったお一人に思わず心の中で「お疲れさまでした」と声をかけていました。詳しい報道を読んで、いへうこちらに正義があるとしても、相手もそれなりにメンシや事情があつて必死の攻撃をしかけてくるので、一筋縄ではいかなかった闘いの経過がよく分かりました。その中で「会社存続」と「雇用確保」がきなかつたということは、実質的には闘わなくても同じだったように思いますが、私も中途半端ながら労働運動に関わった経験から言つて、二つ二つの運動については、結果そのものよりも、強い者

の横暴に泣き寝入りしないぞという労働者の心意気や、働く者同士の助け合いの精神を社会に示すところに一番の意義があると思います。その意味で、ほとんどの人には知れない、こうした出来事をつかり区民に印象づけることはジャーナリズムとして当然かつ立派なことだと思います。また、「労働組合」とは、会社とは人間とは一を考へることができた「仲間」ではないなあ、人に支えられて幸せだなあ」といふ二人の感想には、精一杯闘い抜いた者ならではの爽やかさがあり、胸打れました。

.....

「TOP」や「選挙」もやせられた

田中・四十代会社員

ネット読者です。いつも「あさやけ」を最初に読みます。今号(即ち)では「TOP」や「選挙」のことを考えさせられました。どちらも国民一人ひとりがもっと深刻に考へなければならぬ問題だと思いますが、そのことを筆者の持病(花粉症、片頭痛)や聖書を引き合いに出して面白おかしく展開をわめくのが、いつもながら見事だと思いました。読み始めると最後まで

「一息に読み通してしまふ流れの良さ」といつか、勢いがありますよね。いつもただで読ませてもらうって感謝しています。

大阪の人たちのバイタリティに感心

名古屋・三十年代女性

ネットでもまた「港新聞」に出会い、読むと面白かったので、ひとこと感想を。私の住んでいる名古屋港区もけっこう地域活動は活発なようですが（私自身はあまり参加していませんが）、色々な立場の方がこれだけたくさん活動を一月でされていることに、まず驚きました。労働運動あり、業者運動あり、「町猫」あり、プロレスあり、ミュージカルあり、子供向けイベントあり、文化的なお祭りありと実に多彩です。大阪の人たちのユニークなバイタリティに圧倒されました。会社とマンシヨンの往復で、精神的にはかなり疲れる仕事をしていますが、楽しい記事に、少し元気をもらったように思います。これからも折に触れて読ませて頂きますので、よろしくお願いします。

大阪空襲の悲慘に胸が痛んだ

（弁太・六四歳女性）

坂本京子さんの「戦争体験」(前二〇頁)を読んで。昭和 十年三月十三日の深夜の大阪大空襲の様子を思い出しながら、焼夷弾や機銃掃射の恐怖、安治川べりに避難した時の気持ちなどをとてもリアルに語られているのに驚きました。特に炎の中で犠牲になった人たちの悲惨な様子には胸が痛み、心底から「戦争は絶対にしてはいけない!」と思いました。このとき坂本さんは十二歳で、下の妹さんをおんぶし、病弱だったお母さんの手を引いて逃げられたのが今の同じ年頃の子供たちにこんなことができる



だろうかと、思わず孫たちと比べてしまいました。空襲が終わった後に涙が溢れたこと、家族の無事にお父さんが「良かった」とだけ言われたことなど、戦争を知らない私にもその時の気持ちに分かる気がしました。そういう意味でも、こつこつ戦争体験は、これからもずっと語り続けられなければいけないと改めて思いました。

「港の若者たち」の活躍つれい

（三先・四十代女性）

いつもネットで見ています。四月で目を惹いたのは「エイ革製品に注目 ハルカスで淡路谷さん入念の技アピール」(一九頁)でした。というのは、以前(二〇一一年十一月)に港新聞の「港の若者たち」シリーズで彼が取り上げられていたのを覚えていたからです。家業や剣道にも打ち込みながら高級革製品のブランドを立ち上げたことに「すごい頑張りの屋さんだ」「素敵な若者だ」と感心したものでしたが、その後も活躍されていたことが分かり、嬉しくなりました。ハルカスでの実績をバネに、ぜひ世界へ羽ばたいてほしいと祈ります。

「尾崎キヌ子さん(池島)からの絵手紙」

思い出ありがとう

「交博」最終日に二万人超



→交通科学博物館の閉館式典で挨拶した(左から)JR西日本社長 館長、港区長。右端は港区のマスコットキャラクター「みなりん」

「さよなら交通科学博物館！」「たくさんのお出をありがとう！」。交通科学博物館（JR弁天町駅すぐ）が港区での五十二年の歴史に幕を閉じ、最終日の四月六日（日）は別れを惜しむ二万人超の来館者で賑わいました。

◆二六年春に「京都鉄道博物館」へ

この日午前十時半からの閉館セレモニーでは、兵東勇館長が挨拶。この中で同館長は「一九六一年、環状線開通に合わせて『交通科学館』の名で開業し、東京の『交通博物館』とは一味違ったものにと近代交通や近未来交通を主体に展示してきた。JR移行後の九〇年には現在名に改称、鉄道の歴史や仕組みが学べる本格的な博物館へと充実化を図った。年平均三十万人超の来館は全国の博物館の平均五万人に比して大変な数字。来館者の思いが綴られたメッセージカードは一一月で二万四千通を超えた。三月に近所の九十年代女性が大阪大空襲犠牲者供養の花を供えたいと訪ねられたことに、この地での長い歴史を感じた。多くの鉄道ファンを生み出した館も育てられてきた」と開業以来の歴史を語り、「梅小路S^{（ス）}」館と一体化して二六年春に

←朝から長蛇の列が続いた入場口①と、SL義経号展示などで賑わう屋外展示場②



開業する『京都鉄道博物館』では、感動とひらめきを感じてもらえるよう、これから十二万点の資料を整理し、新たな展示計画を立てる。一年後に京都で会いましょう！と結びました。

◆双方向の意思疎通で運営された

JR西日本の真鍋精志社長は「見て触って動かせる体験型の学習ゾーンとして大阪のほとんどの小学生が校外学習に訪れた」などと同館の歴史と特長を振り返り、「京都鉄道博物館では梅小路の動態資料と一体で新しいものを創り出していきたい」と抱負を述べました。

最後に港区の田端尚伸区長が挨拶。この中で同区長は「高度経済成長の口で開業されたが、

前年には地下鉄中央線も開通し、港区の礎が築かれた時代だった。私も鉄道ファンとして繰り返し遊びに来たが、そのつど完結したドラマがあり、新しい発見があった。常にファンと双方の意思疎通を図りながら運営されてきた」と同館への思いを語り、「京都でのさらなる発展を願つと共に、跡地には大阪の玄関口にふさわしいものを期待している」と結びました。

◆何度見ても飽きなかった

季節外れの寒気や一時的な雨にもかかわらず、館内は朝十時から夕方五時半まで、屋内も屋外も鉄道ファンや家族連れで溢れ返りました。

このつち住吉区から妻と中学二年男子、小学



→ 迫力の実物車両展示に群がる人々(上)と、メッセージカードに思いを書きこむ来館者(下)

四年女児を連れて来館した四十代男性は「私と上の子が鉄道ファンで、家族で十回以上来ました。妻と下の子もパノリマ運転などで鉄道が好きになったようです。私は鉄道の歴史や動力の仕組みに興味を持っています。最後といつことで昨日も来ましたが、何度見ても飽きません。常設展示と企画ものが組み合わされ、いつも新鮮なのが嬉しかったですね。京都の新館には皆で絶対行きます、ハイ」と話していました。

◆この場所で存続してほしかった

また、屋内で航空機の実物展示の写真を撮っていた六十代男性(市岡元町)は「閉館は残念ではありません。統合で収支改善を図るついでに」

JR西日本の内部事情もあり、仕方ないとは思いますが、できればこの交通の便の良い場所で存続してほしい。二十代から二十回以上は来ましたが、そのつど新たな発見があり、思い出は尽きません。特に歌謡曲やプロ野球と絡めた企画は懐かしく、楽しかったです。梅小路にはもちろん行きます」。

S 義経号の屋外展示の前でカメラを構えていた三十代男性は「東大阪市から友だちと来

← 鉄道だけでなく船舶(上)や航空機(下)など交通全般に亘る展示も交通科学博物館の自慢だった



ました。飛行機や船も好きで、休日には駅や飛行場や港へ撮影や録音に行きます。ここには何度も来たので、なくなるのは寂しいです。梅小路には必ず行きます」と話していました。

◆累計一八〇万人超が来館

なお、JR西日本によると、一九八一年一月二十一日開業からの累計入館者数は二八二万三四三三。年間最多入館者数は一九八〇年度(国鉄時代)の五、五四、二五二。月間最多入館者数は今年二月期の九万五四〇三。日別最多入館者数は一九七二年九月十三日(国鉄時代)の二万二三四一。因みに最終日の来館者数はそれに迫る一万〇〇四三だった。

「学びの場」が再出発

弁天町ORC200生涯学習センター



「学びの場」として従来通り活発な「利用を」と呼びかける菱岡所長 中央ら弁天町ORC200生涯学習センタースタッフ 五月一日

「市民の学びの場」が新たな装いでカンバック。五月一日、旧・大阪市立弁天町市民学習センター（弁天二丁目）が「弁天町ORC200生涯学習センター」と名を変えて再出発しました。市政改革により旧センターが市の所有を離れて三月末で「廃館」となり、それまでの市設民営から民設民営となったことに伴ったもの。四月をリニューアルのための準備に充て、菱岡省「所長から従来のスタッフが業務を引き継ぎました。」

◆「市民が主人公」を基本に

同口朝には旧センター時代の月例となっていた、陶芸・絵画・茶道・華道・コースなど利用グループによる「部屋予約抽選会」が、従来のほぼ九割にあたる五十数グループの参加で活気のうちにこなわれ、まずは無難なスタート。

菱岡所長らは「旧センターで積み上げてきたものを無駄にせず再出発でき、嬉しく思っています。従来通り『市民が主人公』『市民自らが楽しみや生きがいを見つめる場』という生涯学習センターの基本を何より大切に、また利用者の皆さんと直接顔を合わせ、言葉を交わすことを心がけながら、情報提供やサポートをさせて頂

きたいと思っていますので、引き続きの活発な「利用を期待しています」と話していました。

◆業務内容はほぼ変わらず

同センターによると、貸室使用料がこれまでより一〇割高くなり、人気イベント「オーク弁天寄席」二五頁に案内などこれまで無料だった催しが一部有料になるなど、民間移行に伴う若干の変化はありますが、開館時間・休館日・施設使用申込法・受付時間など業務内容は従来とほぼ同じということです。

◆民間でも良心的運営を期待

引き続き同センターを利用することになった六十代女性らは同日、二十年前から利用してきましたが、職員の方がとても親切で、アットホームな雰囲気でした。それが市政改革とかで『コストが高いから』と廃止が決まった時は残念でなりませんでしたが、でもこうして「これまでのスタッフの方たちが業務を引き継がれるということで、安心しました。民間ですからどうしても採算をとることが優先されると思いますが、その中でもできる限り市民本位の良心的な運営を期待しています」と話していました。

酒やめて新しい自分に

家族も一緒に「港断酒会」が花見



→「励まし合って酒を断ち、新しい自分を作れた」と立ち直りの飲みに溢れた「港断酒会」の花見風景Ⅱ四月十三日、八幡屋公園で

「酒を断って新しい自分を作っている」。

アルコール依存者と家族の集まりである「大阪
市港断酒会」が四月十三日、八幡屋公園で恒
例の花見会を催しました。あいにくの曇り空で
したが、桜の下で約一千人が弁当やお菓子を囲
み、互いの立ち直りを飲み合いました。

◆体験語り、励まし合い

同会は一九七九年、公益社団法人全日本断酒
連盟（八三年設立。会員約八五〇〇人）の下部
組織として発足。アルコール依存症で入院した
患者らの自助組織」といいますが、「酒をや
めたい」人なら誰でも入会できます。

現在、会員約一千数人が「酒を断って新しい自
分を作っている」「迷惑をかけた人たちに償
いをしていく」「多くの仲間が立ち直っている
のに私が立ち直れないはずはない」などを合言
葉に、毎週金曜の夜十九～二十一時、市岡元町
老人憩いの家（市岡元町一・二・三）で「断酒
例会」を開催。励まし合いながら活動が続けてい
ます。①自主的な互助グループである②先生や
リーダーといった指導者の人がいない③例会
では互いに姓名を名乗って体験談に終始する④

家族間の交流を重視する一などが特徴です。

◆自分を見つめ直すた

花見に参加したある四十代男性は、家族にア
ルコール依存者がいたことや、自営業の破産、
勤務中の事故などのストレスから自らも依存に
陥り入院。その中で断酒会の存在を知って二年
前入会。昨春、港区の会に移りました。「例会で
自分の体験を話したり人の体験を聴いたりする
中で自分を見つめ直すことができました。会の
雰囲気も温かく、これからも頑張れそうです」。

◆回復できる確信

またある七十代女性は、依存症の夫の入院の
繰り返しで苦しみ、思春期の子を抱えて離婚
まで考えましたが、保健所の紹介で二十年前に
入会。会員の姿を見て「依存症からの回復はでき
る」と確信でき、道が開けたと振り返ります。
「保健所で話を聴いて頂いて心が軽くなったこ
と、会のお花見で初めて桜の美しさを感じたこ
とを今も忘れません」と話していました。

なお、アルコール問題での相談や断酒会につ
いての問い合わせは社団法人大阪府断酒会（☎
〇七二・九四九・二二五）まで。

礼節健在、清々しく

第五回港区民剣道大会に二百人



→ 礼儀正しく清々しい雰囲気が印象的だった
「第五回港区民剣道大会」四月二十七日、港スポーツセンターで(写真は開会式風景)

「心身ともに健やかな青少年の育成を」と毎年開かれていた「港区民剣道大会」(区長杯)が今年も四月二十七日(日)、港スポーツセンター(田中三丁目)で開催され、参加十七団体の選手(二四七人)と関係者合わせて約二百人で賑わいました。五十一回目。港区体育厚生協会(秋野久美子会長が主催、港剣友会(淡路谷松之助会長が主管、港区役所(田端尚伸区長)が協賛。

◆緊迫の模範演武

開会式では淡路谷・大会会長が開会宣言を行ない、田端区長が「剣道は心身の鍛練を通じて人格形成を図る素晴らしい武道。自主的な運営で五十年以上も開催を積み重ね、青少年の心身育成に貢献された関係者の皆さんに心から敬意を表したい。選手の皆さんは口頭の稽古の成果を発揮して有意義な大会に」、奥野正美・大阪市会議員が「選手の皆さんには口頭の鍛練で磨いた技をこの大会で花咲かせるよう、関係者の皆さんには今後とも剣道の普及を通じて地域発展に貢献されるよう期待する」とそれぞれあいさつ。安岡隆憲六段(港剣友会会長)が凛とした発声で姿勢で力強く選手宣誓を行いました。

競技冒頭は模範演武。井上晃一七段(港剣友会立ち会)のもと、安岡八段ら五選手が、山本重樹七段(大阪府剣道連盟理事)ら元立ち(上級者)五人に挑む形で緊迫感溢れる攻防が展開され、大きな拍手が起りました。

このあと昼休みを挟んで夕方まで各競技が手際よく進行。閉会式では成績発表や表彰が行なわれ、山本七段が講評を行いました。

◆「交剣知愛」と汗年剣士

開会式のあと、出場する選手たちに剣道に対する思いを訊きました。

交流試合個人戦四十五歳以上、区長杯団体戦交流試合団体戦國長杯への出場を控えた増田博史選手(三先剣友会、六十三歳)は「剣道との関わりは小学四年生の時に警察の少年剣道に誘われたことから。『赤胴鈴之助』(一九五四年から漫画連載、一九五七～九九年にラジオ放送、一九五七～八年に映画公開)に代表される当時のチャンバラブームもあって『恰好ええなあ』と始めました。大学卒業まで続けて一日中断し、五十歳で再開しました。此花区在住ですが、市岡高校卒といつこと三先剣友会に

所属し、週四回、各一時間半ほど稽古しています。勤めのあとの稽古はしんどいといえませんが、もう慣れました。それでも夏場の暑さは年々辛くなっています(笑)。この大会には十数回出場してきましたが、今日は勝敗よりも『気持ちで負けない』という精神面に重きを置いています。得意技はメンと「三」。長年剣道を続けてブラスになっていると思つのは、気持ちを引き締まるなど精神面での安定が得られ、体の健康にも良く、交友範囲が広がることです。

また『交剣知愛』という言葉があるように、相手を重んじ、礼儀やルールを尊重し、その上で技を競い合うところに剣道の最大の魅力があるのではないだろうか。再来年十二月で退職しますが、その後は生活の中心に剣道を置き、末永く楽しみたいと思っています」。

◆「自身の心技体がぐ」と青年剣士

区長杯団体戦と交流試合団体戦國長杯への出場を控えた廣田篤中選手(日本パナユース(株)二十八歳)は「高校一年の時、兄が柔道をやっていて、自分も武道をと思いました。が、体力面を考えると剣道を選びました。その後、中断もあ

←力強く選手宣誓する安岡隆憲六段①(右は淡路谷松之助・港剣友会会長と、冒頭の模範演武の模様②)(立会者は井上晃一七段)



りましたが、何とか続け、住所地である京都の大会などに出場してきました。この大会は初めてですが、団体戦なので、チームに貢献できる形で頑張ろうと思っています。剣道を始めてしばらくは、当座の試合を意識してがむしゃらに向かっていたという感じでしたが、今は勝ち負けよりも、試合に至るまでや試合の中で、自分として何ができたのか、何ができるのか、つまり自身の心技体を磨くということを何より意識しています。そういう姿勢で子供たちの「所懸命な稽古風景などを観ると、素直に『ええなあ』と感じられるようにもなりました。また学校時

代の先輩に出会うなど、剣道を通じた人間関係の広がりにも驚いています。これからも、稽古量を少し増やすなどして、趣味として長く続けていこうと思っています」。

◆「がまん強くなった」と女性剣士

交流試合個人戦女子の部への出場を控えた福西まや選手(市岡高校OB会、二十二歳)は「高校一年の時に剣道部の活動を見て『気迫があつて凛々しいなあ』と惹かれるものを感じ、始めました。今は都島区の剣友会に所属して週一回、一時間半くらい稽古しています。夏の暑さ、冬の寒さは辛いですが、稽古を通じて心身がリフレッシュされ、また九十代から幼児まで幅広い人たちと交流できるのはとても楽しいことです。また八年間続けてきて、少しは我慢強くなったかなと振り返っています。この大会は初めてで、勝敗よりもまず一本取ることを目標にしています。得意技はメン。「これから趣味として楽しく続けていけたらと思っています」。

◆「市民の命守りたい」と少年剣士

交流試合個人戦中学生の部への出場を控えた山本勇真選手(井天剣友会少年剣道部、市岡中

一年は「幼稚園の時に何かスポーツをやろうと友だちと剣道の見学に行き、『竹刀を使ってみよう』と、恰好いいな』と思い、始めました。稽古は週三回、各二・五時間やっています。百本切り返しなどの稽古はしんどいですが、我慢して続けたことで、礼儀正しくなるなど、剣道が自分を心も体も成長させてくれたことを感じています。また剣道を通じて友だちがたくさんできたのも嬉しいことです。将来は剣道で培った心・技・体を生かして警察官になり、市民の命を守りたいと考えています。この大会には四回目の出場ですが、四年生で二位、五年生で一位となり、去年は六年生で優勝できたので、今年もできれば優勝をと思っています。頑張ります」と話していました。

◆日本民族の品格を示す

会場への出入りでは一礼する、試合後は勝っても負けても互いの健闘を称え合つ、本紙インタビューにも真摯な姿勢で答えるなど、この大会で選手たちが見せた一挙一動の凛々しき、爽やかさは、礼節を尊ぶ日本民族の品格がなお健在なことを示し、清々しい気分になさせてくれ

「礼儀正しく爽やかに行なわれた試合風景。上は個人戦中学生の部、下は個人戦小学生の部の通り（敬称略）。



ました。

◆笹森佳奈子さんと優勝

なお、熱戦を制した上位入賞団体・選手は次の通り（敬称略）。

▽交流試合個人戦小学生（二十八人）①佐々野遥（中泉尾少年剣道クラブ）②小央智人（中泉尾少年剣道クラブ）③山下爽太（新金岡剣道クラブ）③永砂陽平（築港剣心会）

▽交流試合個人戦中学生（三十七人）①山内柊生（中泉尾少年剣道クラブ）②山本勇貴（弁天剣友会少年剣道部）③大田佳布（中泉尾少年剣道クラブ）③川邊航（築港剣心会）

▽交流試合個人戦女子（十五人）①笹森佳

菜子（日本パナユース杯）②小川春菜（西区体育厚生協会）③吉田やよい（港剣友会）③黒田紗衣（西区体育厚生協会）

▽交流試合個人戦四十五歳以上（二十四人）

①辻本明義（弁天剣友会）②池野優司（大阪税関剣道部）③増田博史（三先剣友会）③光田由哲（三先剣友会）

▽区長杯団体戦（十八チーム）①港剣友会②弁天剣友会③市岡高校OB会

▽交流試合団体戦國長杯（七チーム）①朝潮剣翔会②港剣友会③日本パナユース杯

スポーツ短信

●大阪港ホイズ（少年硬式野球） 四月、新

一年生を迎えて新たなスタート。五日、淡路大会に参加。初戦はヒットやスクイズ成功で高得点を挙げ快勝。二回戦はコールド負け。十七日、泉州大会に参加、健闘むなしく初戦敗退。五月は南大阪大会、東淀川ジュニア大会に参加予定。硬式野球に興味のある小中学生の体験練習・入部説明随時。 ☎六五七二・六七五三スポーツ

んわ又は ☎〇九〇・八三八五・四八一五香西。

癒しの世界へようこそ

風庵で「曼荼羅アート」好評



→「見ているだけで癒される」と好評の『織葉 曼荼羅アート ひかりのファンタジー展』は繁栄商店街のギャラリー＆カフェ風庵で

「見ているだけで不思議な力を感じ、癒されます」。繁栄商店街のギャラリー＆カフェ風庵で開催中の『織葉 曼荼羅アート ひかりのファンタジー展』が好評です。五月三十日（金）まで。

出品したのは曼荼羅アーティスト・村上織葉さん。明石市に生まれ、大学卒業後、会社勤務の後、二〇一一年に曼荼羅に出会い、二年に独立して曼荼羅アーティストとして活動開始。一三年にはフィリピンで海外個展。今年はニューヨークなどでグループ展を予定。これまでに手がけた作品は千五百点以上。現在も毎日描き続けながら、オーダー作品や名刺用原画の作成講座の主宰など多忙な日々を送っています。

織葉さんによると、曼荼羅は古代サンスクリット語で『円』『魔法円』『聖なる器』という意味を持ち、宗教や文化や地域を越えて先史時代から世界中で使われてきました。現代では心理学者のユングが心の全体性を表わすのに曼荼羅を使ったことが知られています。

今回の展示にあたって織葉さんは「曼荼羅には見る人の人生を良い方向へ導いてくれる不思議な力があります。ぜひ曼荼羅の中心から広がる光を見つめ、あなただけの曼荼羅の世界を感じてみて下さい」と呼びかけています。

←出品された曼荼羅アートから「Forgiveness（許し）」①と「太陽の国」②



議な力があります。ぜひ曼荼羅の中心から広がる光を見つめ、あなただけの曼荼羅の世界を感じてみて下さい」と呼びかけています。

◆六、七月は「近江の麻」展

なお、風庵では「曼荼羅アート」展のあと、六月一日～七月三十一日、一昨年好評を博した「近江の麻」展を予定。人類最古の繊維とされる麻は、丈夫で吸水・発散性にも優れていることから、夏の繊維とも呼ばれますが、同展では琵琶湖の恵みを受けた近江滋賀県産の麻で作ったタオルやバッグ、コースター、絵本、団扇など多彩な生活・芸術品が展示されます。

風庵は南市岡二二二・一〇、☎四九八五・五九八一、十時～十八時開館（日曜定休）。

お釈迦様の誕生祝い

西明寺などで「花まつり」にぎわう



→様々な催しで子供たちの歓声が溢れた市岡・西明寺の「花まつり」。写真は釈迦像に甘茶を注ぎにきた親子連れら＝四月五日午後

「お釈迦様のお誕生日をお祝いしましょう」と毎春に催される仏教行事「花まつり」が今年も区内各地で行なわれました。

「花まつり」は正式には「灌仏会」と呼ばれ、「釈迦の誕生日」である四月八日に、花御堂に安置した釈迦像に甘茶を注ぎ礼拝する法会（大辞林）とされています。釈迦の誕生日を祝して竜王（仏法を守る竜）が香水を注ぎかけたという伝説にもつき、日本では推古天皇の時代から行なわれたといわれ、平安時代には宮中でも催されるようになりました。

◆道化師や紙芝居も登場

市岡の紫雲山西明寺（浄土真宗本願寺派）では四月五日の午後、親子連れなど約七十人が様々な催しを楽しみました。「甘茶接待」では注ぎかけの後で供された甘茶の不思議な甘さが来場者の表情を和ませ、「仏様のお話」では熊本直雄住職（五〇）が子供たちの健やかな成長を願って優しい仏教講話を披露。「ショータイム」では日本でも珍しい道化師「コンビチムチムサービス」がドタバタ喜劇で大笑いを誘い、ボランティアグループ「千のかげ」は愉快な紙芝居で子供らの

「パフォーマンスを披露する「チムチムサービス」①と紙芝居を上演する「千のかげ」②



目を虜に。最後の「お菓子配り」では順序正しく受け取る子供らの姿が爽やかでした。

また、この日は市岡の介護施設「サイオン」の入所者とスタッフ十数人が招待されると共に、来場者からの賛銭やカンパは全て「東日本大震災復興支援募金」に充てられました。

同住職や坊主（妻の知子さん）は「先代からのこの催しも私たちの代でリニューアルして四年が経ちました。当寺ではトイレも含めてバリアフリーにしていますので、これからも地域の拠り所として親しんで頂けるよう、また港区が安心して住み続けられる町になるよう、こつこつと催しを地域とコラボレーションしながら続けて参りたいと思っています」と話していました。

筆記員「あづがひ」

天満宮で筆供養祭など厳肅に温かく

使い古した筆記員「お疲れ様でした」「ありがとう」と感謝し、供養する「筆供養祭」などの伝統的な諸行事が四月十三日午後、三先の天満宮で催され、四十数人が参加しました。

◆役目を終えた筆やペンを

このうちメインの「筆供養祭」「献茶祭」には地元住民ら十数人が参列。役目を終えて持参された筆や鉛筆などの供養が行われ、書道・文字・学業・習い事などの上達が祈願されると共に、薄茶を神前に奉納。最後の「お茶席」では約二十人が境内の桜を観賞しながらお菓子とお茶を楽しみました。厳肅な中にも温かみのある雰囲気印象的でした。

同宮では毎年、祭神である菅原道真公の神徳に当りて年初に「書初め」(本紙 田「既報」)を催しており、その際に用いる筆の供養を主な目的に、この祭を続けてきましたが、近年は筆

だけでなく鉛筆や万年筆、ボールペン、シャーペンシルなども受け入れ、供養しています。

◆三行事が一連の流れで

因みに、天満宮によると、この日行なわれた三行事は一連のものとして、ほぼ次のような趣旨と流れで行なわれました。

当日、本殿前の境内地には「斎場」が設けられ、「こどもす村岡康生吉司が祭礼について簡単に説明。続いて、参列者がこの日持ち寄った筆記員や、事前に納められていた筆記員がお祓いを受けました。さらに神饌(お酒やお菓子などのお供え物)や薄茶が神前に供えられ、吉司が祝詞(神前で読み上げる文章)を奏上した後、参列者が筆記員を自らの手で神前に納め、その供養(冥福を祈る)ことが行なわれました。

このあと、吉司が玉串を奉り、拝礼した後改めて参列者や奉仕者が玉串を奉納。最後に神前の神饌と薄茶が下げられ、祭礼の終わりを報告する一拝一礼によつて締めくくられました。

ついでこの祭礼が終わった後、吉司がその趣旨を改めて説明。奉仕者への感謝が述べられると共に、そのあとに行なわれるお茶席につ

いて、「献茶を点てたのと同じ釜で点てたお茶をいただき、神前に供えたお菓子と同じ物をいただく」ことにより、大神様のさらなるご加護が受けられます。これは『直会』といつて、祭典という神聖で非日常的な状態から日常に直る(戻る)ための神事なのです」との説明を加えました。

これを受けて参列者の多くは、そのまま境内にとどまつてお茶席を楽しみました。

なおこの催しは地元ケーブルテレビ「Baycom」の取材を受け、当日の様子が後日放映されました。



子や孫に自分の人生をのこそう!

島根県から上阪し、金属系企業で働きながら労働運動にも力を注いできました。全国的な運動退潮の中、10数年前に第一線を退きましたが、この間の経験と教訓がいつの日か運動の再興に役立てばとの思いから港新聞に相談し、冊子にしてもらいました。(70代男性)

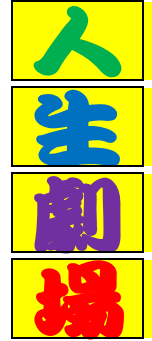
お話をききとり、冊子にしてお渡しします。

400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

みなと



港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがフィクションとしてつづる当地ドラマ。シリーズ第五弾は、築港在住の九十年代女性が七十年代前に経験した、はかなくも美しいラブ・ストーリー。

ぼて丸の恋 (一)

（前号あらず） 築港に一人暮らしす九十過ぎの世津子はボケを感じながらも体は元気だ。デイサービスから帰ったある春の夕方、退屈がてら電話した知り合いの地域新聞社長から昔の事を投書するよう助言され、思い出が甦った。生まれ育った愛媛県^{えひめけん}の海、道楽者^{どうらくしや}だった父、働き者だった母、戦病死した兄、戦後宮んだ飲食店、そしてあの日の恋…。一九三三年、漁師の娘として生まれた世津子は小学校を卒業すると今治市の紡績工場へ住み込みで働きに出た。寮生活のため衣食住の心配はなく、その上に

月十五円の給料をもらった。因みに当時売店で売っていたシヨールは一枚四円だった。寮では八畳に十人ほどが入り、とても賑やかだった。一交替勤務で、夜勤は十一時から始まったように世津子は記憶している。

しかし、仕事そのものはそつとくなくあったものの、どういつわけが、夏の南京虫に彼女一人がやられ、それがあまりに辛くて、結局一年ほどで工場を辞めた。そして母の勧めで大阪へ出、叔母^{おば}（母の妹）が経営する港区の玉栄屋^{たまえい}ビリヤードの二階に住み込んだのである。

♥ 活気があった市岡ハラダイスあたり

当時、港区には三千〜四千軒の玉栄屋があり、叔母の店は「市岡ハラダイス」と呼ばれる大きな遊園施設^{レジャー}（現在の磯路三丁目自動車教習所あたりにあった）のそばにあり、一帯はいつも活気があった。

今でも世津子が覚えているのは、映画館では洋画専門の「明光館」、邦画も洋画も上映する「文化座」、実演^{じしん}芝居もあるハラダイス劇場など。他にスケート場へ行けばすぐに廃業したや喫茶店^{「イーター」}（珈琲になぜか椎の実^{しい}が付いていた）

もあり、夕陽橋交差点の角の太鼓饅頭屋^{たいこまんじゅう}はとても繁盛^{はんじょう}していた。若者^{わかしよ}置き屋や旅館も多く、キャバレーも二店ほどあり、ヤクザ風の男の人が経営する氷屋は、そんな水商売を相手にいつも忙しそだった。旅館にはたくさん兵隊が幾晩か泊^{とま}っては、大阪港から中国へと出征して行った。

♥ 繁盛したハラダイスクラブ

そんな中で「ハラダイスクラブ」の看板をあげ、フロアに二つの台を並べた叔母の店はとても繁盛していた。一台に二人が付き、「四つ球のローテーション」で遊ぶお客の点数を読み上げたり、大きな算盤^{そろばん}のような点数表示器に得点を示したりするのが世津子の仕事だった。

月に二回の休みがあり、月給は十二円。そのころ出征して満州のハルピンにいた兄に五円を送ったら、「こっちはお金に不自由はしてないから、これからは送るなよ」と手紙が返ってきたのを世津子は覚えている。

昼休みには叔母が替わって台に付いてくれたが、世津子が入って余裕ができたからか、叔母はその後、次々と三人の女の子を産んだ。叔父

(叔母の夫)はローヤルタクシー(今の相互タ
クシーの前身)の運転手で、とても穏やかな性
格の人だった。

この店にはもう一人「サッチャン」と呼ばれ
る、世津子より三歳ほど上の従業員が少し前か
ら働いていた。よその玉器屋から移ってきたの
で仕事には慣れていたが、丸顔でおとなしく、
鹿児島生まれで、仕事のあと一階の相部屋で
よく遅くまで故郷のことをしゃべり合っていたのは、
当時の楽しい思い出だ。

♥ 関戦で慌ただしい世津子の中

そうして仕事にも都会での生活にもなじんで
きた一方で、日本と中国との戦争はなかなか終
わらず、昭和十六(一九四二)年の暮れにはアメ
リカやイギリスとの間でも戦争が始まり、町の
空気に何となく慌ただしくなってきた。休日
にはモンパ姿で住友倉庫へ勤労奉仕に行き、兵隊
に送る生話の整理などに携わった。空襲に備
えてのバケツリレーや本土決戦に備えての
竹槍訓練も度々あったが、世津子は「こんな
で勝てるんやろか」と内心不安だったのを覚えて
いる。それでも日本が南方で進撃を続けてい



たせい、緊迫感や悲壮感は見られなかった。
世津子とその男性に出会ったのは、ちょうど
そんな頃だった。

♥ 異性の誘いどじょう

昭和十七(一九四二)年の春、店に住み込
んで五年になる世津子は十九歳になっていた。

その頃よく店に通つてくる二十一二歳の
男性がいた。すらりとした背が高く、物静かな整
気を持っていた。叔父と同じローヤルタクシー
の運転手で、名前は平田広、広島県尾道市
出身だと世津子は叔父から聞かされていた。い
つも同僚と一緒に制服姿をやつてきては、他の
連中のようにぶさけ合ったり馬鹿騒ぎしたりす
ることもなく、黙々と、しかし朗らかな表情で
プレーしては帰って行った。

その平田がある日の帰り際、連れの同僚ら

ら離れ、台を片づけている世津子に近寄り、「今
度の休みにどこかへ遊びに連れて行ってあげた
いんじゃない?」と声をかけたのだ。
ラジオのアナウンサーのような爽やかな声だっ
た。が、当時、お客から「ぼて丸」とあだ名
をつけられるほど丸々と太り、ちよつとしたか
らかいの言葉はしょつちゅうかけられていたも
の、異性からの誘いなどあるわけがないと思
っていた世津子には、まさに「青天の霹靂」だ
った。

「えい」と言っただけ、しばらくは言葉が出
なかった。が、前から彼に悪い印象は持ってい
なかったのに、断わるという選択は頭になく、
また咄嗟のこじこ「あつてお返事させて頂きま
す」という言葉も浮かばず、相手の胸元を見たま
ま、「はい」と返事をしてしまったのだ。ま
顔は火照ったように熱く、頬は真っ赤に染まっ
ていたはずだと世津子はあの時を振り返る。

「うう、ありがたう。それなら」平田は嬉
しそうな表情で、次の日曜日の待ち合わせ場所
と時刻、行き先などを手短かに伝え、外にいる
仲間を追って、急ぎ足で出て行った。(つづ)

写実的な画風で魅了

芽の会 村古夫妻が個展、賑わっ



→写実的な画風が好評だった村古高士・純子夫妻の「竹の子」二人展 作品から、高士さんが安治川河口を愛着込めて描いた油彩画『繫留』

写実的な画風が来場者を魅了しました。平和の願いをキャンバスに込めて絵画人生を送ってきた八幡屋の川島恵美子さん（八三）から絵画を学ぶ人たちのグループ「芽の会」の会員であるむらこたかし（じゅんこ）村古高士（七三）・純子（六八）夫妻（築港）による作品展「竹の子」二人展が四月下旬、地下鉄朝潮橋駅前の画廊＆アトリエ・ガレリア・リバーリアで開かれ、区内外からの鑑賞者で賑わいました。

◆港区の河川や樹木などの自然を描く

夫妻はこれまで北区でも個展を開き、二度目の今回は初の地元開催。この数年で描きためた作品から、高士さんが油彩十点と水彩三点とスケッチ三点、純子さんが油彩八点と水彩一点とスケッチ三点、計二十八点を出品しました。どの作品も、川島さんの指導によるリアリズム（写実主義）を基調にした正確なデッサン力、迫力と繊細さを兼ね備えた表現力、そして描く歡びに溢れた筆致と色づかいが印象的でした。また、今回は地元開催を意識して高士さんが港区の河川風景に、純子さんが樹木などの自然風景に、それぞれモチーフを絞って展示作品を選んだというのでした。

「『自然の生命力が伝わってくる』と来場者を魅了した純子さんの油彩画『安田の大杉』



◆港区の風物への愛着

このうち、安治川河口や天保山運河の堤防・栈橋・廃船などを描いた高士さんの油彩画は重厚で迫力に満ちていました。壁面の汚れや崩れ、ペンキのはがれや赤錆、網やロープの綻びなど、細かい部分の質感もリアルに再現され、無駄を省いた構図には力強さを感じられました。

高士さんは作品について「このあたりの人が観て、『ああ、これ、見たことあるわ』と思いつたり懐かしく思ったりして、港区の風物に関心や愛着を持って頂けたら嬉しい」と、その狙

いを話してくれました。

◆日本の自然への愛情

一方、純子さん描く自然風景も生命力に溢れていました。画面を大胆に絞ってクロースアップされた古木の木肌は思わず触りたくなる凹凸感があり、苔などの細かい描写にも手抜きが見られませんでした。またどこか優しくやわらかな感じられる雪景色や河畔風景には、失われつつある日本の自然への愛情が窺えました。

純子さんによると、古木は丹波篠山で、雪の田野は豊能で、川べりは滋賀県で、それぞれ夫婦での日帰り旅行で観た情景とか。その場での



→天保山運河を重厚に描いた高土さんの油彩画

『解溜り』④と、花びらの重なりもリアルな純子さんの油彩画『さくら咲く』⑤

←川島恵美子さんと共に来場者を迎える村古夫妻⑥と、作品について語り合う来場者ら⑦



スケッチを基本に、その際に撮った写真も参考にし、それでも納得できなかったら再び訪れるなど、「できるだけ観る人の目と心に響くように」と願いながら仕上げたそうです。

◆絵に対する姿勢が印象的

夫妻は「芽の会」に入ってから十一年。絵に対する姿勢について次のように口を揃えています。「川島先生の指導でまず構図を決め、色の重なりや筆の動かし方を工夫しながら、どの作品も一点一点丁寧に仕上げます。先生からは絵に対する姿勢をはじめ、構図や遠近感、重なり具合の表現など様々なことを教えて頂いています。特に色づかいでは、自然界に単純な色は一

つもないことや、先入観に囚われず大胆に色を選択することで意外な効果が得られることなどを学び、日々感動を新たにしています。」

なお、「芽の会」についての問い合わせは、画廊&アトリエ「ガレリア・リバーリア」(三先一三三・二八、☎七五〇二四二八八)へ。

演劇ガイド

●あながいおまる一座スタジオ公演『情の夫婦』

『落語』『風呂敷』をベースにした、豆腐屋の亭主とがみさんと間男の話。底抜けに善良でとぼけた亭主、色っぽい悪女型の女房、小粋で小心ものの若衆。そこへ他人通の兄貴が事件解決に乗り出す。そんな中にも長年つれそった夫婦の情が見えかくれ。あながいおまる座長が脚本・演出。出演はミッシー原本さん、道野学さん、あながいおまるさん他。六月二十一日(土)十四時、十八時、二十一日(日)十三時、十五時の四回。前売二千三百円、当日千八百円。問合せは会場の石炭倉庫(波除ハ・五・一ハ)UR井天町駅から国道四三号を北へ直進、安治川堤防突当りの右すべ。☎六五八一・〇六六四へ。

地域パワーが全開！

弁天まつり、カラオケなど楽しむ



→地域のパワーが溢れた「弁天まつり」(写真はカラオケ大会表彰式。中央は優勝の吉田香子さん、右は上田哲夫会長)オーク管理(株)提供

住民参加型の地域イベント「弁天まつり」が四月二十九日午後、弁天町オーク広場(弁天二丁目)で開催され、多くの区民で賑わいました。弁天連合振興町会(上田哲夫会長)とオーク200が毎年この時期に共催し、二十一回目。

♪カラオケは吉田香子さん優勝

毎年人気のメインイベント「カラオケ大会」は午後一時ごろスタート。各町会から推薦された二十組(二十三人)が次々とマイクを握りました。「弁天一なら港区」の声もあるハイレベルの大会とあって、いずれ劣らぬ歌唱の連続に、会場から拍手喝采が絶えませんでした。

予想通りの大混戦となりましたが、上田会長ら五人による厳正な審査の結果、長野県木曽町を舞台に、アスナロの木に希望や願いを託す人生応援歌『木曽の翌檜』(長山洋子)を圧倒的な声量、張りつ切れのある発声、メリハリをきかせたプロ級の表現力で歌い上げ、会場のどよめきを誘った吉田香子さん(二丁目西町会)が獲得、満場の祝福を浴びました。

♪コーラス・ダンスやプロのライブも

カラオケの前には地域住民による「コーラスや

←生涯学習ルームなどのコーラスグループは美しいハーモニーで会場をうっとりさせた



ダンスが登場「ミルキーウェイ&スターダスターズ」「ミトラカント」「弁天サマーズ」(以上コーラス、「ファンキー」(ダンス、「ブルメリア」(フダンソウ など例年の顔ぶれに混じって、初出演の「シャイニングベイブズウィヤ」による軽快な「スヘルヤ、同じく初出演の「美ふじ會」による「羅生門」「あんだの女房」など凛々しく艶やかな日本舞踊も注目を集めました。

カラオケ大会の後には磯路在住の歌手・松浦ゆみさんのミニライブがあり、プロならではのパワフルかつハートフルな歌唱で会場を席巻。最後は全員参加のビンゴゲームで大きな盛り上げのうちに、午後五時ごろ、お開きとなりま

「初登場「美ふじ會」による凛々しく艶やかな日本舞踊^上や、松浦ゆみさんによるパワフルでハートフルなプロの歌唱^下には大声援が



した。

全体を通じて、終日の雨にもかかわらず、日頃の井大住民のパワーが一気に花開いたような溢れる活気が印象的でした。

なお、カラオケ大会の入賞者（準優勝以下）は次の通り（カッコ内は町会名）。

準優勝^{たけお} 佐藤猛雄さん（五十目東）『愛の鎖』
 △連合会長賞^{ヨシノブ} 延承信さん（クロスタワー）『レインブルー』
 △女性部長賞 山下ひとみさん（四丁目北）『歌路遣か』
 △店舗会賞 伊藤武司さん（四丁目西）『パナ奴』
 △オーク200賞 鴻野正伍さん（四丁目北）『魂』
 △松浦ゆみ賞 鴻野泰江さん（四丁目北）『海峡吹雪』

ライブ情報

●八幡屋出身ロックドラマー^{きりたかつし} 桐田勝治さん 日

本のビジュアル系ハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに、と演奏に磨き。中学校出身▽所属バンド「ガーゴイル」の十五枚目のアルバム『奇獣』^{きじゅう}好評▽六月十三日（金）十八時半から江坂ミューズ吹田市豊津町一〇・一五、地下鉄江坂^⑧出口^分、公ハ三八七・〇二〇三でガーゴイルなど三バンドによるライブ『黒帯ロッカーズ2014』に出演予定。当日四千円・前売二千五百円▽七月十三日（日）十八時から江坂ミューズ（前出）でガーゴイル十七周年記念ライブ『完全に自由な何かを』に出演予定。当日四千五百円・前売四千円（二枚で一人入場可）。



→ 桐田勝治さん^⑧とペドロさん^⑨

●三死のフォーク歌手^{ベドロさん} 切断ブラザーズ（左手親指切断の共通体験を持つ三人で結成）のリーダーやソロで温かな雰囲気のアレンジ

ナルソング▽毎月第一・三木曜各二十時ザ・セラ（中央区西心斎橋、公ハ二二一・六四三七）
 △毎月第三火曜二十時かつおの遊び場（中央区宗右衛門町、公〇九〇・五八八・一七〇一五）
 △毎月第一火曜二十時半ロージー（中央区西心斎橋、公ハ二二三・三九九九）。

●市國元町在住の音楽ユニット「花☆キャラ」

生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルゲリータとトマトパスタ』『あなたらしくあなたらしく』好評。



→ 花☆キャラの演奏風景

平和のため

戦争体験

語り継ごう

今月の語り部

さかもと きょう子

坂本 京子さん(八二)磯路在住 ③

幼い頃まで 昭和七年、港区千代見町に生まれた私は日中戦争から太平洋戦争へと戦火が拡大する中で小学校生活を送り、六年生では香川県へ集団疎開、耐乏と和の精神を学んだ。磯路小卒業のため帰阪中の二十年三月十三日深夜、大阪大空襲に遭遇。炎の中で悲惨な光景を見たが、家族五人と我が家は無事だった。

死体の山に絶句

「大阪危ない」と大分へ疎開

後から落ち着いて考えれば、この空襲で風上

へ逃げたことが、私たち家族が助かった大きな要因でした。その時は無我夢中だったので、風上・風下なんて考えも余裕はなかったのですが、この逃げた方向によって運命が分かれたことは、明くる朝の光景で一層はつきりました。

家の近くに、三社神社と三社クラブ(映画館と磯路小と変電所に囲まれた広い交差点)がありましたが、その真ん中へ、風下に逃げた人たちのおびただしい遺骸が山のように積み上げられていたのです。雨上がりの湿った空気の中、死臭がものすごく、真つ黒に炭化したものもあれば、半焦げや生煮えのものもあり、男女の別も年齢もほとんど分かりませんでした。その中から何とか見分けの付きそうな遺体を警防団の人たちがトタン板に載せ、「この人を知りませんか」と生き残った人たちに見せて回っていた光景が今も目に焼き付いています。

結局、この大空襲による大阪の被害は「罹災者五十万人、全焼十三万五千戸、死者約四千人」(大阪府警鑑査局)、港区では東半分がほぼ焼き尽くされ、「約七万五千人が罹災、全焼一万戸、死者四百余人」(同)とされています。

◆父の里へ家族で疎開

この三月空襲の経験から、父は「もつ大阪は危ない」と判断し、母の里(堺市)へ縁故疎開していたすべ下の弟とその下の妹も一緒に、父の里である大分県高田町(現・豊後高田市)へ疎開することになりました。この時、人の善い父は、この空襲で焼け出された近所の母娘(五十代くらいと三十歳くらい)にいたく同情し、我が家も米も家財道具も「みんな使いなさい」とあげてしまいました。が、その家も三月月後の六月には再度の大空襲で灰になってしまいました。

そんな事情で、私は四月に港区の市岡女学校(今の港高校の前身)に入学したものの、ほとんど通つことなく、疎開先の高田女学校へ転校したのです。そして結局、私たちはそこで終戦を迎えることになりました。

◆苦しかった田舎での生活

高田の実家では父は五男が六男で、本家は三男が継いでいたので、私たち家族七人はその離れの二間を借りて暮らすことになりました。ところが、同じような事情で東京の長男家族も帰って来ていたので、大きな家とはいえ、二

く三十人もが二つ屋根の下に暮らすことになり、子供同士の睨みあいや喧嘩が絶えず、ほどなく父は「アアカン」と近くの二階建ての空き家を借りました。そこは広い芋釜のある、やはり大きな家でしたが、厠（便所）が外にあり、夜中、一人で用を足しに行くのが怖くて妹を起して連れて行ったのを覚えています。

この高田で病弱な母は、お金を稼ぐために父がぼろぼろ家になく、私が引く乳母車に乗り、子供たちと与える食べ物に分けてもらったため、靴など交換用の品々を携えて家々を回りました。それでも米はほとんど手に入らず、薩摩芋が精一杯でした。それを持ち帰り、蒸したり餅にしたりして、皆で食べました。そんな生活の傍ら、私は学校へ通っていました。

◆勤労奉仕、市岡中学生の思い出

学校ではほとんど授業はなく、毎日のように数キロ離れた柳ヶ浦の宇佐海軍航空隊基地へ勤労奉仕に出ました。そこは海軍部隊の一つで元々は飛行機の搭乗員を教育・訓練する施設でしたが、戦況の悪化から、この年の二月には特別攻撃隊（敵艦に体当たり攻撃をする部隊）

昭和二十年六月にも大阪や神戸は大空襲に見舞われた。上は桜橋付近で必死の消火作業もかなわず家を見捨てる人たち、下は子をかばって黒焦げになった神戸の母親の遺体



の基地となり、さらに、四月に空襲を受けてからは「退避基地」となっていました。私たちはその周辺の草むしりなどに携わりました。

その奉仕の中で、私と同じ港区の市岡中学校（今の市岡高校の前身）の出身という男子生徒に会ったのは全くの偶然でした。彼は特攻隊員として待機しているというので、私たちは同郷といつともあつて感極まり、抱き合つて涙を流しました。

因みに、その彼の場合で、基地の中に小山のような形に造られた退避壕へ入れてもらった

ことがありましたが、中はとても広くて通路が縦横に延び、穴が幾つもあり、備品や備食料も驚くほど豊富で、「まるで御殿みたい」と感心したものでした。その食料の中から、彼は私に「これ持って帰り」とチヨコレートを握らせてくれました。私は嬉しくて嬉しくて、それを宝物のように持ち帰ったことが、まるで昨日のこのように思い返され、今でも涙が溢れます。

◆辛かった母の死

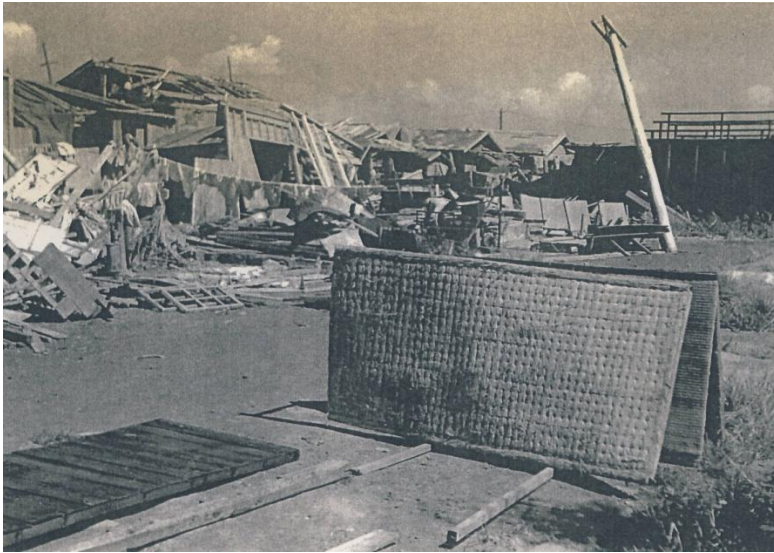
そんな生活の中で何より辛く悲しかったのは、やはり母の死でした。春から夏にかけてのある昼休み、芋ばかりの弁当を食べていたら、先生から「早く帰るなさい」と言われ、急ぎ戻ると、既に母は息を引き取っていました。真ん中の妹が国民学校から先に帰っていて「何か言ったと思ったら、がくと息が絶えた」と教えてくれました。

死因は前々からの内臓疾患で、大きな体の内には水が溜っていたというのですが、知らぬ遠隔地での苦勞が死期を早めたように思えてなりません。また四十歳でした。

なつかにひつたしまむかし

多岐旅する港区あの時

▼…ジーン台風(昭和二年・田中)



「昭和 十五年九月三日(日曜日)午後一時、京阪神地方を襲ったジーン台風は、終戦後五年、嘗々として廃墟から築き上げつつあった復興途上の本市を真つ向から襲い、実に惨憺たる大被害を与えた」(『港区誌』より)。

上は、この台風による高潮が引いて間もない田中三丁目自の惨状を、同地に今も暮らす山本安孝さん(八五〇当時二歳)が写したものだ。

◆四・五の大潮で被害甚大

最大風速四五メートル、暴風継続七時間という風の影響もさることながら、台風通過時刻が満潮時と重なったため、海面から四・五メートルに達した高潮の影響が大きかったといわれています。このため港区では防潮堤の決壊が五十五カ所に及び、石田・田中あたりの仮設住宅八十戸が流失し、八幡屋市営住宅が半壊するなど、区内各地域の被害は実に大きなものでした。しかし盛土工事を終えていた地域は、冠水はしたものの浸水からは免れ、その後も半世紀に亘って継続された「港地区復興(土地)区画整理事業」の有効性が事実をもって証明されたとされています。

◆市立運動場から八幡屋公園へ

↑と同一位置から撮った現在の田中三丁目。手前は八幡屋公園を巡る遊歩道のコラシ並木



上の田中三丁目付近は、当時は市立運動場、次いで国際見本市会場、さらに交通公園へと用途がめまぐるしく移り変わったあと、一九九七(平成九)年に八幡屋公園として整備され、現在に至っています。

ミニ文化案内

●**弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」** オーク 旧「弁天町市民学習センター」が三月末にいったん「廃館」となったが、五月二日

同じ職員・スタッフで再出発。その最初のイベントは長年親しまれた地域寄席の第三十三回。五月十八日(水)十九時〜二十時半(開場十八時半)に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家と旭堂南麟さん(大阪出身の講師)をしぐりゅうに、今回は桂文昇さんと月亭天使さんも。先着百二十名。当日五百円、前売四百円(同センターで販売中)。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。TEL六五七



→弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」にしぐりゅう出演する落語家笑福亭學光さん①と講師・旭堂南麟さん②

七・一四三〇、FAX六五七七・一四三三。

●**港図書館** ①図書展示「身体を動かしてみませんかの本」展Ⅱラジオ体操やストレッチ、ウオーキングなど簡単にできる運動の本を展示。

六月二十九日(日)まで開催中②③「図書展示」のものだ「すき」展Ⅱ乗り物をテーマにした子ども向けの本を展示。六月二十九日(日)まで開催中③おたのしみ会Ⅱ毎週水曜十五時半〜十八時、じゅつたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要④あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ毎月第一金曜日(六月は八日)の十一時〜十一時半、じゅつたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよつ工夫。申込不要⑤「せん」の風」による紙芝居上演の時間変更Ⅱ五月から毎月第一土曜日十五時半〜十八時に(十一月は休み)▽六五七六・一三三六。

●**関西フィルハーモニー管弦楽団『第五七回定期演奏会』** いんあむのたいぎてい 「飯守泰次郎&関西フィルハーモニー演奏会形式上演シリーズ」の第十三回。二〇一一年の第一幕に続く楽劇「ジークフリート」

第二幕を演奏会形式で原語上演(字幕付き)。指揮は関西フィルハーモニー名誉指揮者・飯守泰次郎さん、テノールは竹田昌弘さん、ソプラノは畑田美さん、プリユンヒルデ、アルトは竹本節子さん、エルダ、バス・バリトン、片桐直樹さん(さすらい人、ヴォーダン)。六月十三日(金)十九時から、ザ・シンフォニーホール(JR大阪環状線「福島」駅から北へ歩約七分)で。S席八千円、A席五千円、B席四千円、学生席千円(全席指定・消費税込)。六五七七・一三八一。



←指揮を担う関西フィルハーモニー管弦楽団桂冠名誉指揮者・飯守泰次郎さん(©武藤章)

●**市岡寄席** 市岡住民が運営する地域寄席の四回目。「みんなで応援・活用 市岡の地域人材!」を謳い文句に市岡在住の落語家・桂福丸さん

（桂春団治一門）の落語 席を楽しむ。六月五日（木）十九時から紫雲山西明寺（市岡二一・四八五七一・五八二六）で、先着八十名。菓子付き。ひまわりクッキーなど港区オリジナル商品やお食事券などが当たる抽選会あり。運営協力金としてのカンパ歓迎。主催は市岡寄席実行委員会（市岡地域活動協議会広報部会、市岡連合振興町会、紫雲山西明寺、繁栄商店街振興組合など市岡に關係のある諸団体や個人から成る。桂福丸さんは灘中・灘高・京大卒。英語落語でアメリカ公演も。天満天神繁昌亭やTV番組出演中。

●関西フィルとともに歩む会「16周年記念コンサート」 弁太町を拠点に活動する関西フィ



→前回（今年二月）の市岡寄席（上）と前回（昨年）の関西フィルとともに歩む会記念コンサート（下）

ルハーモニ管弦楽団を応援する市民グループによる総会を兼ねた「コンサート。十分間はどの総会の後、同楽団の弦楽五重奏メンバーが登場。第一部は「オーケストラの中の弦楽器のおしごと」と題して各楽器の果たしている役割をチェロ奏者の太田道宏氏が楽しく解説。第二部は弦楽オーケストラ名場面集」と題してどこかで聴いた心に残る旋律を、モーツァルト、バッハ、ベゼー、チャイコフスキー、レスピーギ、ホルスト、プリテンなどから楽しむ。六月一日（日）十四時から弁太町ORC生涯学習センター講堂（オーク2番街西館七階）で、高校生以上千八百円、中学生以下八百円。乳幼児参加不可。要電話予約。 ☎六五七四・七七五六足立。

●ガラスアート・ナカイグループ「生徒作品展

〜光と影〜」 ガラスアートNAOMI（磯路

など同グループの生徒作品を一堂に。二十八回目。ガラスアートは江戸期から伝統の京都手描き友禅手系目技法を応用して一九八六年に考案された新しい芸術。ガラス特有の透明感・幻想感や技法のシンプルさが人気。五月十五〜二十五日の十一〜十七時（火曜休、最終日十五時

で）に池田市緑のセンター（阪急池田駅下車、バス停③から五月丘小学校前で下車すべし）一階ギャラリーで。入場無料。問い合わせ先は金元（磯路） 丁目、 ☎六五七六・一三四四。

●シネ・ヌーヴォ「第一次世界大戦から百年戦争の世紀（戦争映画特集）」 第一次世界大戦

から百年。近代兵器による無差別爆撃や大量虐殺が繰り返されてきた。いま日本は再び戦争に向かっているのか…。平和な未来に向けて、戦争を描いた東西の傑作八本を一挙上映。上映期間は五月二十四日〜六月八日。上映作品は『大いなる幻影』（一九三七年フランス）『戦場にか



→第一次大戦を舞台に戦争の悲劇と人間の絆を描いた『大いなる幻影』（上）と、第一次大戦下の一夜の奇跡を描いた『戦場のアリア』（下）

←明治天皇を主軸に日露戦争を捉えた『明治天皇と日露大戦争』⑤と、太平洋戦争の転換点を劇的に描いた『太平洋の嵐』⑥



ける橋』(一九五七年アメリカ)『明治天皇と日露大戦争』(一九五七年新東宝)『ハワイ・ミッドウェイ大海空戦 太平洋の嵐』(一九六〇年東宝)『ナバロンの要塞』(一九六一年アメリカ)
チンタ『青島要塞爆撃命令』(一九六三年東宝)『ジョニーは戦場へ行った』(一九七二年アメリカ)『戦場のアリア』(二〇〇五年フランス)。当日一般千四百円。上映スケジュールなど詳細は同館西区九条一・二〇・二四、地下鉄九条駅⑥出口歩三分、☎八五八二・一四二六へ。

●ガットネロ 市岡在住のシャンソン歌手・松浦田美子さん主宰の音楽喫茶△HAMORII・

←ガットネロを主宰する松浦田美子さん①と、うた☆カフェに出演のHAMORII・BE②



BE(はもりべ)のうた★カフェII若手テノールデュオ(中川公志さん・小原有貴さん)が日本の懐かしい歌を、一四年のテーマは「つき・ひほし」を歌う。ピアノは福本由美さん。五月十六日(金)十一時、十五時(各六十分)。会費一千五百円(二飲物付・定員十五名・要予約)▽クラシックカフェII「古典からロマン派への名曲ア・ラ・カルト」をテーマに川端綾さん(ヴァイオリンと



→ガットネロ「クラシックカフェ」に出演する川端綾さん①と多田安希子さん②

多田安希子さん(ピアノ)がフレームスバッハ・

シヨパン、ベートーヴェンを演奏。六月八日(金)十九時・会費一千円(定員十五名・要予約)▽午後九時のシャンソン第四回＝松浦田美子さんが藤田稔さんのピアノで。六月八日(日)十五時▽なんてったってシャンソンII「ガットネロ実験劇場」の十一回目。松浦田美子さんのシャンソンをメインに映像や後藤ミホさんのアコーディオン、久保比呂志さんの津軽三味線&キーボードを交え、三部構成で。六月二日(日)十四時から兵庫県立芸術文化センター神戸女学院ホール(阪西西宮北口駅歩二分)で。チケット二千円(学生千円)▽ガットネロは天王寺区上本町六・二・三七、地下鉄谷町九丁目駅①出口、☎八六七六・七〇〇二。

●ギャラリーはたなか「安治川旅情 坂井ユウ

ジロー展」安治川周辺の風景を水彩などで叙

情豊かに描く。五月十五日(金)～二十五日(日)の十一～十九時(二十一日休、最終日は十七時まで)。磯路二・一・一五(港区役所向かい)。☎八五七二・一五九八七。

●ギャラリー&雑貨egg「天保山どてぶ

「つえん2」 「動物園」がテーマの参加型グループ展の二回目。写真やイラストなどの平面作品と手作り雑貨が「ラボ。五月十七日(土)まで開催中(火曜日定休)。十一時半〜十九時半開場(最終日は十七時まで)。入場無料。グルッグは築港一・ハニ・八九 播磨ビル一階(地下鉄大阪駅④出口から徒歩約三分)、TEL・FAX 六五七二・六九二一、Eメール goog2012@gmail.com http://goog2102.blog.fc2.com

ひとくちPR

(二行||税込二〇〇〇円)

●弁天町ORC200生涯学習センター新オープ

音楽・絵画・健康体操・ダンス・川柳・書道・生け花・語学・茶道・手芸などあなたの学びを応援します。研修・会議・イベントにも利用OK。弁天一・二・三・七〇〇(地下鉄・JR弁天町駅直結)、☎六五七七・一四二〇。
●NPOみなと同ケアセンター ①介護や老いの相談に乗ります②介護を受けるための手続きを代わりにやります③「ライサービス」は送り迎

え付きで入浴・昼食・手芸・ゲーム・カラオケ・囲碁・将棋・麻雀・体操などを楽しまます④訪問介護は安い物・掃除・洗濯・通院などのお手伝いをします。問い合わせはお気軽に☎六五八三・四八八〇、FAX六五八三・二二二へ。

●あなたのふとんが生まれ変わります！

羽毛も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛(敷)ふとん一万円〜。ふとん館ひらのや(南田岡二・一・八 繁栄商店街東入口フリーダイヤル〇二〇・四二四九・五五)。

●レンタルフリーボックス

一カ月二〇〇〜一八〇〇円。鍵付きガラスケース、棚上陳列スペース・ハンガー、足元置きカ「などの月極レンタルも。」スズメハウスナナイロ(南田岡二・二・九 繁栄商店街内) ☎六五八六・一五五。

●アルバイト急募

週一回の新聞配達と月一回の集金を都立のいい時間に。港民主商工会(夕四・一〇・二六、☎六五七一・七七八七)。

●放課後・春・夏・冬・休みは学童保育へ

入所児童募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。☎六五七五・〇三三五ありんこ。

●ボクササイズでシェイプアップ！

女性も小・中・高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。月会費五千元(無期限十枚つづりチケット五千元)。入会金一万円を〇金半額。練習日は月・水・金の十九時半〜二十時半。港ボクシングジムは三先一・三・九(地下鉄朝潮橋駅南側の歩道橋すべの裏通り)。http://ameblo.jp/minatogym/

●マナビ・スクール 繁栄商店街 チーム学習に

よって「全員ができる」をめざす新学習法。小一〜高二。月謝は週一回で実質六千円。NPOが運営。問合せはメールで(info.ubiquitous.adv@gmail.com)。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント名を書いて20日必着で港新聞へ。

●関西フィル「第五十七回定期演奏会」

(三三)文化案内)招待券を「ヘア1組」。

●弁天町ORC200生涯学習センター「オー

ク弁天寄席」(三三)文化案内)招待券「ヘア1組」。

●あながいおまる一座「情の夫婦」